

2012●図書館展示6-8月

英国王室と音楽

—戴冠式の音楽を中心に—

企画・構成：三宅 巖（国立音楽大学附属図書館総務部）



期間：2012年6月11日～8月3日

場所：図書館ブラウジングルーム

英国王室と音楽

— 戴冠式の音楽を中心に —

2012年7月27日からロンドンオリンピックが開催されます。また、今年にはエリザベス女王在位60周年に当たります。こうした王室に関連する行事などのために、古くから色々な作曲家による作品が作曲されています。今回の展示では、英国王室の儀式、特に戴冠式のために作曲された作品を中心に紹介します。



目次

英国王室と音楽	2
国王の音楽師範	3
英国王室の儀式のために作曲された作品	4
展示資料紹介	6

企画・構成 ● 三宅巖 (国立音楽大学附属図書館総務部)

英国王室と音楽

英国王室と音楽の繋がりを辿ると、チューダ朝のヘンリー8世(在位:1509-1547)にまで遡ります。自らも作曲・演奏を行ったヘンリー8世は宮廷に優秀な音楽家を集め、王室の礼拝堂のためにたくさんの音楽を作らせました。そしてヘンリー8世は1534年、当時のローマ教会に反旗を翻し、「イングランド国教会」を設立しました。設立の理由としては、最初の妃である「アラゴンのキャサリン」との離婚を当時のローマ教皇が認めなかったからと言われています。

ヘンリー8世の娘メアリー1世(在位:1553-1558)の代で教皇との関係は修復されますが、エリザベス1世(在位:1558-1603)は再びカソリックと袂を分かち、国教の統一化を図ります。この後、現在にいたるまで、英国王室では「英国国教会(The Church of England)」を正式な宗教としています。

これにより、ラテン語によるミサやモテトゥスの代わりに、英語の歌詞によるサーヴィス(英国国教会の主要礼拝の典礼式文に作曲した楽曲)やアンセム(英国国教会の礼拝の最初や最後に任意で聖歌隊が歌う楽曲)が作曲されることになりました。

このサーヴィスやアンセムの作曲は現代の作曲家まで引き継がれています。

王朝	王と女王	在位期間	関連事項と儀式用音楽の作曲
チューダ朝	ヘンリー7世	1485-1509	
	ヘンリー8世	1509-1547	1534年 「イングランド国教会」設立
	エドワード6世	1547-1553	
	メアリー1世	1553-1558	
	エリザベス1世	1558-1603	
スチュアート朝	ジェームズ1世	1603-1625	
	チャールズ1世	1625-1649	1626年 「国王の音楽師範」設立
	(共和制)	1619-1660	
	チャールズ2世	1660-1685	
	ジェームズ2世	1685-1688	1685年 パーセル:戴冠式アンセム「わが心には喜ばしき…」
	ウィリアム3世	1689-1702	
	とメアリー2世	1689-1694	
アン	1702-1714		
ハノーヴァ朝	ジョージ1世	1714-1727	
	ジョージ2世	1727-1760	1727年 ヘンデル:戴冠式アンセムより「祭司ザドク」
	ジョージ3世	1760-1820	
	ジョージ4世	1820-1830	
	ウィリアム4世	1830-1837	
	ビクトリア	1837-1901	1897年 エルガー:帝国行進曲作品32
ウィンザー朝	エドワード7世	1901-1910	1902年 エルガー:戴冠式頌歌作品44
	ジョージ5世	1910-1936	1911年 エルガー:戴冠行進曲作品65
	エドワード8世	1936-1936	
	ジョージ6世	1936-1952	1937年 ウォルトン:戴冠行進曲「王冠」
	エリザベス2世	1952-	1953年 ウォルトン:戴冠行進曲「宝玉と勺杖」、戴冠式テ・デウム

国王の音楽師範

また、英国王室と音楽の繋がりの一つに「国王の(女王の)音楽師範」(Master of the King's Music (or Master of the Queen's Music))があります。これは英国王室(Monarchy of the United Kingdom)内の役職の1つです。

『ニュー・グローヴ音楽事典』では、「イギリス王室の宮廷において、長期にわたり広く世俗音楽の演奏活動を行った音楽家に与えられる称号。現在これは名誉称号となっており、実体を伴うものではない。」と述べられています。

現在ではクラシック音楽の作曲家に与えられる称号で、詩人に於ける桂冠詩人に概ね相当すると言えるでしょう。名誉称号なので、もちろん実際の職務は定められていませんが、記念式典、結婚式、葬式等の王室の重要な行事のための音楽を作曲することが求められ、これが主な仕事という事になります。

この称号は1626年にチャールズ1世によって作られ、当時はMaster of the King's Musickという綴りでした。この綴りは1975年のマルコム・ウィリアムソンの任命まで使われました。

最初に国王の音楽師範に任命されたのはニコラス・ラニアーで、同時に王室の私的な楽団の管理も任せられました。楽団の管理は楽団が解散する1901年まで引き継がれました。

国王の音楽師範の任期は終身でしたが、2004年3月に就任したピーター・マックスウェル・デーヴィスから10年間の任期になりました。

女王の音楽師範にはこれまで以下の人々が就任しています(括弧内は任期)。

ラニアー, ニコラス Lanier, Nicholas (1626年-1649年、1660年-1666年)
グラビュ, ルイ Grabu, Louis (1666年-1674年)
スタギンズ, ニコラス Staggins, Nicholas (1674年-1700年)
エックルス, ジョン Eccles, John (1700年-1735年)
グリーン, モーリス Greene, Maurice (1735年-1755年)
ボイス, ウィリアム Boyce, William (1755年-1779年)
スタンリー, ジョン Stanley, John (1779年-1786年)
パーソンズ, ウィリアム Parsons, William (1786年-1817年)
シールド, ウィリアム Shield, William (1817年-1829年)
クレイマー, クリスチャン Kramer, Christian (1829年-1834年)
クラマー, フランツ Cramer, Franz (1834年-1848年)
アンダーソン, ジョージ フレデリック Anderson, George Frederick (1848年-1870年)
カズンズ, ウィリアム ジョージ Cusins, William George (1870年-1893年)
パラット, ウォルター Parratt, Walter (1893年-1924年)
エルガー, エドワード Elgar, Edward (1924年-1934年)
デイヴィス, ウォルフオード Davies, Walford (1934年-1941年)
バックス, アーノルド Bax, Arnold (1942年-1952年)
ブリス, アーサー Bliss, Arthur (1953年-1975年)
ウィリアムソン, マルコム Williamson, Malcolm (1975年-2003年)
デーヴィス, ピーター マックスウェル Davies, Peter Maxwell (2004年-)

英国王室の儀式のために作曲された作品

次に英国王室の儀式のために数々の作品を作曲した作曲家の中で、特に著名な 4 人の作曲家とその作品を紹介いたします。

パーセル, ヘンリー (1659-1695) *Purcell, Henry*

英国におけるバロック音楽最大の作曲家。チャールズ 2 世の治世から、ジェームズ 2 世、ウィリアム 3 世/メアリー 2 世(同時統治)と 3 代 4 人の王に仕え、その間数多くの祝賀アンセム、オーード(頌歌)、祝典音楽を作曲しました。

***My heart is inditing*(戴冠式アンセム「わが心には喜ばしき言葉が湧き出て」)**

1685 年ジェームズ 2 世(在位:1685-1688)の戴冠式のために作曲されました。

ヘンデル, ジョージ フレデリック (1685-1759) *Handel, George Frideric*

ドイツ生まれでイギリスに帰化した作曲家。バロック期を代表する重要な作曲家の一人。1727 年にイギリスに帰化していることや、イギリスでの活動歴のほうが長いことから、イギリスでは、英語名でジョージ・フレデリック・ハンデル(ハンドル、ヘンドル)と呼ばれ、自国の作曲家として扱われています。

1727 年に即位したジョージ 2 世の戴冠式で、今日の英国王戴冠式のモデルともなる、多くのファンファーレやアンセム、テ・デウム等が配された祝賀的な音楽イベントを催しました。

***Zadok the Priest HMV258*(戴冠式アンセムより「祭司ザドク」)**

1727 年ジョージ 2 世(在位:1727-1760)の戴冠式のために作曲された戴冠式アンセムの第 1 曲。『ジョージ 2 世の戴冠式アンセム』の 4 曲のなかで、現在も演奏の機会が多い曲で、単独でも演奏されます。歴代国王の戴冠式では必ず演奏される曲です。司祭ザドクとは『旧約聖書』「列王記」に登場する人物で、ソロモン王に香油を注いだ人物です。

ヨーロッパサッカー連盟主催・UEFA チャンピオンズリーグのテーマ曲である『UEFA チャンピオンズリーグ・アンセム』は、トニー・ブリテンによる、トランペットのファンファーレなどを加えた本曲の編曲版です。

エルガー, エドワード (1857-1934) *Elgar, Edward*

イギリスの作曲家・指揮者。1857 年 6 月 2 日ウスター近郊のブロードヒースで生まれ、独学で作曲法を学びました。1899 年、「エニグマ(謎)」変奏曲の初演の大成功によって英国中にその名を知られるようになりました。

また、1901 年に作曲・初演された行進曲「威風堂々」第 1 番の中間部の旋律は英国王エドワード 7 世に気に入られ、国王の戴冠式のために書かれた「戴冠式頌歌」(1902 年)において歌詞をつけて用いられています。この旋律は今日「希望と栄光の国」として愛唱され、英国の第 2 の国歌と称されています。

1904 年にナイトに叙され、1931 年に准男爵にも叙されています。また 1924 年には「国王の音楽師範」の称号も得ています。

***Imperial march op. 32*(帝国行進曲作品 32)**

1897 年ビクトリア女王(在位:1837-1901)即位 60 周年記念式典のために作曲され、1897

年 4 月 19 日、ロンドンのクリスタル・パレスにおける式典でオーガスト・マンズの指揮により初演されました。

Coronation ode op. 44(戴冠式頌歌作品 44)

1902 年エドワード 7 世(在位:1901-1910)の戴冠式のために作曲。終曲の「希望と栄光の国」(Land of Hope and Glory)は行進曲「威風堂々」第 1 番のトリオの旋律にアーサー・クリストファー・ベンソンによる歌詞を付けたもので、国民的愛唱歌として今も歌われています。

Coronation march op. 65(戴冠行進曲作品 65)

1911 年ジョージ 5 世(在位:1910-1936)の戴冠式のために作曲され、1911 年 6 月 22 日、ウェストミンスター寺院で執り行われた戴冠式で初演されました。

ウォルトン、ウィリアム (1902-1983) Walton, William

20 世紀イギリスの作曲家。ランカシャー州(現グレーター・マンチェスター州)のオールダムに生まれ、作曲はほとんど独学で修めました。詩人 E.シットウェルの邸宅に起居し、1922 年その詩に作曲した朗読と器楽アンサンブルのための《ファサード》で一躍注目を集めました。

クラシック音楽以外では、映画音楽の作曲も数多く行っており、中でもローレンス・オリヴィエ製作・監督・主演のシェークスピア三部作(「ヘンリー五世」「ハムレット」「リチャード三世」)が有名です。

1951 年にナイトに叙せられています。

Crown Imperial(戴冠行進曲「王冠」)

元来は、エドワード 8 世(在位:1936)の戴冠式のために作曲されました。しかし、エドワード 8 世は 1936 年に退位し、代わって即位した弟のジョージ 6 世(在位:1936-1952)とエリザベス妃の戴冠式に使用されることになり、1937 年 5 月 12 日、ウェストミンスター寺院で執り行われた戴冠式で初演されました。

Orb and Sceptre(戴冠行進曲「宝玉と勺杖」)

1953 年エリザベス 2 世(在位:1952-)の戴冠式のために作曲され、1953 年 6 月 2 日、ウェストミンスター寺院で執り行われた戴冠式で初演されました。

Coronation Te Deum(戴冠式テ・デウム)

1953 年エリザベス女王(現女王)の戴冠式のために作曲され、1953 年 6 月 2 日、ウェストミンスター寺院で執り行われた戴冠式で初演されました。

***参考文献**

・山尾敦史著『ビートルズに負けない近代・現代英国音楽入門 : お薦め CD ガイド付き』(音楽之友社)(請求記号●C63-079)

・200CDアヴェ・マリア編集委員会編『アヴェ・マリア ; 200CD ; 宗教音楽の名曲・名盤』(学習研究社)(請求記号●J103-881)

展示資料

パネル

Crystal Palace(水晶宮)

1851年、ロンドンで世界最初の万国博覧会が開かれた際に、会場として設計された鉄骨と総ガラス張りの巨大な建物。万国博覧会閉幕後、ロンドン南郊のシドナムの丘に移され、1854年6月10日新水晶宮としてオープンした。1859年の第1回ヘンデル・フェスティバル等様々なイベントの会場になったが、1936年、原因不明の火事で焼失した。

出典: Lewis Foreman and Susan Foreman "London: a musical gazetteer"

New Haven: Yale University Press, c2005 p.173

(請求記号●J104-732)

Westminster Abbey(ウェストミンスター寺院)

懺悔王エドワードのウェストミンスターにある修道院の改修により、1065年に建立。翌1066年のウィリアム1世の戴冠式より、2人を例外に歴代の王の戴冠式がここで行われている。

英国カトリックの大本山ウェストミンスター大聖堂(Westminster Cathedral)は別の建物。

出典: 蛭川久康〔ほか〕編著『ロンドン事典』

東京: 大修館書店, 2002 p.839 (請求記号●R233/L)

ウェストミンスター寺院の内部

出典: クリストファー・E.M.ピアソン著、榎山昌夫日本語版監修・訳『世界の建築 1000の偉業』

東京: 二玄社, 2011 p.197 (請求記号●R520/S)

Royal Albert Hall(ロイヤル・アルバート・ホール)

1871年ビクトリア女王の夫君アルバート公を称えて、ケンジントンに建てられた記念会堂。

現在も、コンサート、各種式典、会議等の会場として使用されている。

毎年夏期に開催されるプロムナード・コンサート(通称「プロムス」)は特に有名。

出典: クリストファー・E.M.ピアソン著、榎山昌夫日本語版監修・訳『世界の建築 1000の偉業』

東京: 二玄社, 2011 p.313 (請求記号●R520/S)

パーセル, ヘンリー (1659-1695) Purcell, Henry

英国におけるバロック音楽最大の作曲家。チャールズ2世の治世から、ジェームズ2世、ウィリアム3世/メアリー2世(同時統治)と3代4人の王に仕え、その間数多くの祝賀アンセム、オード(頌歌)、祝典音楽を作曲した。

出典: Robert King "Henry Purcell: a greater musical genius England never had"

London: Thames & Hudson, c1994 p.129 (請求記号●J80-277)

ヘンデル, ジョージ フレデリック (1685-1759) Handel, George Frideric

ドイツ生まれでイギリスに帰化した作曲家。バロック期を代表する重要な作曲家の一人。1727年にイギリスに帰化していることや、イギリスでの活動歴のほうが長いことから、イギリスでは、英語名でジョージ・フリデリック・ハンデル(ハンドル、ヘンドル)と呼ばれ、自国の作曲家として扱われている。1727年に即位したジョージ2世の戴冠式で、今日の英国王戴冠式のモデルともなる、多くのファンファーレやアンセム、テ・デウム等が配された祝賀的な音楽イベントを催した。

出典: Christopher Hogwood; chronological table by Anthony Hicks "Handel"

London: Thames and Hudson, c1984 p.36 (請求記号●C40-771)

エルガー, エドワード (1857-1934) Elgar, Edward

イギリスの作曲家・指揮者。1857年6月2日ウスター近郊のブロードヒースで生まれ、独学で作曲法を学んだ。1899年、「エニグマ(謎)」変奏曲の初演の大成功によって英国中にその名を知られるようになった。また、1901年に作曲・初演された行進曲「威風堂々」第1番の中間部の旋律は英国王エドワード7世に気に入られ、国王の戴冠式のために書かれた「戴冠式頌歌」(1902年)において歌詞をつけて用いられている。この旋律は今日「希望と栄光の国」として愛唱され、英国の第2の国歌と称されている。1904年にナイトに叙され、1931年に准男爵にも叙されている。また1924年には「国王の音楽師範」の称号も得ていた。

出典: Jerrold Northrop Moore "Elgar : a life in photographs"
[London : Oxford University Press, 1971] p.66 (請求記号●C16-839)

ウォルトン, ウィリアム (1902-1983) Walton, William

20 世紀イギリスの作曲家。ランカシャー州(現グレーター・マンチェスター州)のオールダムに生まれ、作曲はほとんど独学で修めた。詩人 E.シットウェルの邸宅に起居し、1922 年その詩に作曲した朗読と器楽アンサンブルのための《ファサード》で一躍注目を集めた。

クラシック音楽以外では、映画音楽の作曲も数多く行っており、中でもローレンス・オリヴィエ製作・監督・主演のシェークスピア三部作(「ヘンリー五世」「ハムレット」「リチャード三世」)が有名。

1951 年にナイトに叙せられている。

出典: Vincent Giroud "William Walton, composer : a centenary exhibition in the Beinecke Rare Book & Manuscript Library, Yale University"

New Haven : Beinecke Rare Book & Manuscript Library ; [S.I.] : Distributed by University Press of New England, c2002 p.2 (請求記号●J99-556)

図書

山尾敦史著『ビートルズに負けない近代・現代英国音楽入門』

東京 : 音楽之友社, 1998 請求記号●C63-079

日本語で書かれた初めての近現代イギリス音楽の解説書。エルガー、ウォルトンについても一章を当てて紹介している。お薦め CD ガイド付き。

マイケル・トレンド著、木邨和彦訳『イギリス音楽の復興』

東京 : 旺史社 2003 年 請求記号●J99-680

エルガーからベンジャミン・ブリテンまでの近代イギリス人作曲家の生涯とその音楽のについての解説書。

下楠昌哉責任編集 ; 下楠昌哉[他]著『イギリス文化入門』

東京 : 三修社, 2010 請求記号●J119-163

イギリスの文化全般に関する入門書。第 6 章に「イギリスの音楽」、第 11 章に「イギリスの王室と政治」が掲載されている。

出口保夫, 小林章夫, 齊藤貴子編『21 世紀イギリス文化を知る事典』

東京 : 東京書籍, 2009 請求記号●R233/N

21 世紀における文化・社会情勢を考慮して、イギリスの文化を多方面から解説した事典。

ギルバート・フェルプス著 ; 大蔵雄之助訳『英国王室物語 ; イギリス君主制の歴史』

東京 : サイマル出版会, 1975 請求記号●J37-045

王座をめぐる人間ドラマと、栄枯盛衰の嵐を越えて王冠を守り続けてきた歴史を平明に語った英国王室物語。

東京富士美術館学芸課編『英国王室のローブ展図録 ; 絢爛たる歴史と栄光の 300 年』

[八王子] : 東京富士美術館, 1989 請求記号●J70-205

掲示した頁の写真は、ジョージ 6 世、エリザベス王妃、エリザベス王女、マーガレット王女の戴冠式後の写真。

アンドルー・セイント, ジリアン・ダーリー著 ; 大出健訳『図説ロンドン年代記. 上』

東京 : 原書房, 1997 請求記号●J86-175

2000 年にわたるロンドンの歴史を「史料」とそれに関連する図版でたどるロンドン歴史ガイドの上巻。

アンドルー・セイント, ジリアン・ダーリー著 ; 大出健訳『図説ロンドン年代記. 下』

東京 : 原書房, 1997 請求記号●J86-176

2000 年にわたるロンドンの歴史を「史料」とそれに関連する図版でたどるロンドン歴史ガイドの下巻。

Lewis Foreman and Susan Foreman "London : a musical gazetteer"

New Haven : Yale University Press, c2005 請求記号●J104-732

ロンドンの音楽関連の名所案内書。

英国日本婦人会出版小委員会著『ロンドンに暮らす 新版』

東京 : 日本貿易振興会, 1996 請求記号●J89-860

ロンドンに暮らす人のための生活の手引書。

蛭川久康[他]編著『ロンドン事典』

東京 : 大修館書店, 2002 請求記号●R233/L

ロンドンを歴史的視点から捉えて、「歴史の中のロンドン」の今日的全体像を追求する趣旨で編纂された事典。ロンドンに関するあらゆる分野の事項をアルファベット順に配列。

祭譜

Henry Purcell ; edited from the autograph score by C.F. Simkins "My heart is inditing : anthem for double chorus and string orchestra"

London : Schott, c1948 請求記号●E6-103、他

戴冠式アンセム「わが心には喜ばしき言葉が湧き出て」。1685年ジェームズ2世(在位:1685-1688)の戴冠式のために作曲。

G. Fr. Handel ; edited by Dietrich Kruger "Zadok the priest : anthem for the coronation of King George II"

[Hilversum, Holland] : Harmonia-Uitgave, [19—] 請求記号●H12-260

戴冠式アンセムより「祭司ザドク」。戴冠式アンセムより「祭司ザドク」。1727年ジョージ2世(在位:1727-1760)の戴冠式のために作曲された戴冠式アンセムの第1曲。『ジョージ2世の戴冠式アンセム』の4曲のなかで、現在も演奏の機会が多い曲で、単独で演奏されることも多い。歴代国王の戴冠式では必ず演奏される。司祭ザドクとは『旧約聖書』『列王記』に登場する人物で、ソロモン王に香油を注いだ人物とされる。

ヨーロッパサッカー連盟主催・UEFAチャンピオンズリーグのテーマ曲である「UEFAチャンピオンズリーグ・アンセム」は、トニー・プリテンによる、トランペットのファンファーレなどを加えた本曲の編曲版である。

Edward Elgar "Imperial march : op. 32 ; Triumphal march : from Caractacus, op. 35 ; Pomp and Circumstances : military marches nos. 1-5"

München : MPH, 2007 請求記号●E14-851

帝国行進曲作品32。1897年ビクトリア女王(在位:1837-1901)即位60周年記念式典のために作曲。1897年4月19日、ロンドンのクリスタル・パレスにおける式典でオーガスト・マンズの指揮により初演。

Edward Elgar "Coronation ode : op. 44 ; God save the Queen : for solo, chorus, orchestra and military band ; Coronation march : op. 65"

München : MPH, 2006 請求記号●E14-793

戴冠式頌歌作品44は1902年エドワード7世(在位:1901-1910)の戴冠式のために作曲。終曲の「希望と栄光の国」(Land of Hope and Glory)は行進曲「威風堂々」第1番のトリオの旋律にアーサー・クリストファー・ベンソンによる歌詞を付けたもので、国民的愛唱歌として今も歌われている。

戴冠行進曲作品65は1911年ジョージ5世(在位:1910-1936)の戴冠式のために作曲。1911年6月22日、ウェストミンスター寺院で執り行われた戴冠式で初演。

William Walton "Crown imperial : coronation march : (1937)"

London : Oxford University Press, c1967 請求記号●E8-139

戴冠行進曲「王冠」。元来は、エドワード8世(在位:1936)の戴冠式のために作曲された。しかし、エドワード8世は1936年に退位し、代わって即位した弟のジョージ6世(在位:1936-1952)とエリザベス妃の戴冠式に使用されることになり、1937年5月12日、ウェストミンスター寺院で執り行われた戴冠式で初演された。

William Walton ; edited by David Lloyd-Jones "Coronation marches"

Oxford : Oxford University Press, c2010 請求記号●E15-206

戴冠行進曲「宝玉と勺杖」。1953年エリザベス2世(在位:1952-)の戴冠式のために作曲。1953年6月2日、ウ

ウェストミンスター寺院で執り行われた戴冠式で初演。

William walton "Coronation Te Deum : composed for the coronation of H.M. Queen Elizabeth II in Westminster Abbey on Tuesday, 2 June 1953"

London : Oxford University Press, c1953 請求記号●F4-220、他

戴冠式テ・デウム。1953年エリザベス2世(在位:1952-)の戴冠式のために作曲。1953年6月2日、ウェストミンスター寺院で執り行われた戴冠式で初演。

録音資料

"Coronation music for King James II : (1685)"

[サイモン・プレストン指揮、ウェストミンスター寺院合唱団・管弦楽団](1986年録音) 請求記号●XD6034

戴冠式アンセム「わが心には喜ばしき言葉が湧き出て」を収録。演奏はウェストミンスター寺院の合唱団他による。

"The coronation of King George II"

[ロバート・キング指揮、キングス・コンソート、キングス・コンソート合唱団](2001年録音) 請求記号●XD59453-4

戴冠式アンセムより「祭司ザドク」を収録。1727年のジョージ2世の戴冠式で演奏された音楽を再現したCD。

「「エニグマ」変奏曲；行進曲「威風堂々」(全曲)他 / エルガー」

パリー・タックウェル指揮、ロンドン交響楽団(1988年録音) 請求記号●XD6833

帝国行進曲作品32を収録。

"Coronation ode : op. 44 ; The spirit of England : op. 80 / Sir Edward Elgar."

[サー・アレクザンダー・ギブソン指揮、スコテッシュ・ナショナル管弦楽団、他](1976年録音) 請求記号●XD7945

戴冠式頌歌作品44を収録。

「管弦楽曲集 / サー・エドワード・エルガー」

ヨンダーニ・バット指揮、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団(1989年録音) 請求記号●XD27865

戴冠行進曲作品65を収録。

「戴冠式行進曲；王冠 / W. ウォルトン、他」

ヘンリー・クリップス指揮、BBCコンサート管弦楽団(1965年録音) 請求記号●XD34150

戴冠行進曲「王冠」を収録。

「イングリッシュ・ランチ・タイム・コンサート」

ロバート・ファーノン指揮、BBCノーザン交響楽団(1977年録音) 請求記号●XD33871

戴冠行進曲「宝玉と杖」を収録。

"Belshazzar's feast ; Coronation Te Deum ; Gloria / William Walton."

[サー・デヴィッド・ウィルコックス指揮、フィルハーモニア管弦楽団、他](1989年録音) 請求記号●XD9415

戴冠式テ・デウムを収録。

「ザ・ラスト・ナイト・オブ・ザ・プロムス；コレクション」

パリー・ワーズワース、指揮BBCコンサート管弦楽団、他(1996年録音) 請求記号●XD40082

戴冠行進曲「王冠」、「祭司ザドク」を収録。「プロムス」の「ラスト・ナイト・コンサート」で演奏される曲を収録。

「世紀のロイヤル・ウェディング；公式アルバム」

[ジェームス・オドネル指揮、ウェストミンスター寺院合唱団、他](2011年録音) 請求記号●XD67564

2011年4月29日にウェストミンスター寺院で行われた英国王室ウィリアム王子とキャサリン・ミドルトンの結婚式の模様を収録したCD。

ポスターの画像

Queen Elizabeth II

出典: Britannica Image Quest File Name : 115_891559-W.jpg

Coronation

出典: Britannica Image Quest File Name : 115_878162-W.jpg

●展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)
<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2012/6/11 編集●国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 撰正弘・田村和子